

Amir Tsarfati 氏 中東情勢アップデート 2017年 10月 22日公開

.....
ガリラヤより、シャローム。現在、私はエズレル平野にいます。外の様子が分かりにくいですが、もう日が傾きつつあるので、車内にいることにしました。外は、かなり騒々しいですし。

ともかく、今回は、イスラエルとシリアの間で、ここ数日間に起こった事をまとめて短くお伝えしたいと思います。その理由は、本日、イスラエル軍が、我々とシリアとの間の将来的な事に関して、重要な結論に至ったためです。私がずっと言ってきたことを覚えておられるでしょうか？エゼキエル戦争が起こる前に、ダマスカスが崩壊しなければならない、と私はずっと言ってきました。つまり、イスラエルが対戦しなければならない相手は、ダマスカスだという事です。シリア相手に、互いの間にある対立の為に、です。そして、それが最終的に何らかの形で、ダマスカスの崩壊につながって、それから、大国ロシアとその同盟国対イスラエルの中東戦争に発展します。

次に重要なことは、1973年以來今に至るまで、イスラエルにはシリアと戦うだけの十分な理由が何もありませんでした。言い換えれば、彼らは停戦を守って来ました。我々の中の無人地帯や、国境付近での軍事行動を行わないなど、全てにおいて大丈夫でした。戦争がない限り、我々は何も行いません。ここ5年間、イスラエルは時々シリアに襲撃を送り込んで、武器を破壊しなければなりません。それらの武器は、我々に向けて使用されるため、レバノンのヒズボラに運ばれる途中に、シリアに密輸されたものです。ですから私たちは、シリアそのものに対しては特に何も問題ありません。問題は、我々に対して何かを企んでいる者です。そこで、本題は、この手の事で我々がシリアを攻撃するたびに、シリアは我々に対して怒っていたのです。しかし、彼らには2つの選択肢がありました。一つは、言葉を飲み込んで、「我々も何とかしたいが、我々は弱くて何もできない」と言うか、もう一つの選択肢は、威嚇して何かをしようとしているふりをする。これまでは、それほどひどくはなかったのです。

10月16日、シリアはロケットを2発、レバノン上空を飛行していたイスラエルの飛行機に向かって発射しました。これは、我々にとっては一線を超える行為で、我々は直ちに報復し、イスラエルの飛行機に向かって発射された所のロケット発射台を破壊しました。もし、これで足りなければ、我々は超えてはならない一線があることをシリアに対して実に明確に示したつもりでいますが、昨日、当初はあちらで反政府軍と政府の間を飛び交っているロケットの流れ弾のように見えていましたが、最終的に5発のロケットがゴラン高原のイスラエル側に落下したのです。イスラエルは、これらが発射されたと思われるシリア軍の出力を破壊しました。ここで、私が報告する価値があると思えた重要な点は何かという、昨夜の時点でイスラエル軍は、現場の全ての証拠を検証した後、非常に興味深い結論に至ったのです。その結論とは、

「これは流れ弾ではない。」そして、

「イスラエルは初めて実際にシリアからロケットによる攻撃を受けたのだ。」

次にとても興味深いのは、シリアがそれを行ったのは、ロシアの防衛大臣がイスラエルを訪問している

まさにその時であったこと、また、イラン軍のトップがダマスカスを訪れ、シリアの長官と会談した一週間後であったことです。私が言いたいのは、イランはシリアを使ってイスラエルを攻撃させ、全てを加速させている、ということです。つまり、シリアは臆病者でいることをやめて、イスラエルに向かってロケットを発射し始めたということです。これが唯一、イスラエルに報復させ、戦争に持ち込める方法だからです。先ほども言いましたように、昨夜今朝の時点で、イスラエル軍の階級トップとイスラエル政府もまた、我々が新しい段階に入ったことを悟ったのです。新しい段階とは、1973年以來の44年間を変えるものです。それはつまり、シリアによって、シリアから来る直接的な攻撃で、これは我々の存続にかかわることなのです。つまり、現在我々は非常に興味深い分岐点にあり、イスラエルの中で最も静かであった国境は、実に、シリアとの国境だったのが、そこはもはや静かな国境ではなくなりました。もはや、シリア人たちが何も行わない国境ではなくなったのです。我々は、自分たちのやり方や考え方を変えなければならない局面にきています。イスラエルは容赦せず、直ちにこれらの出力を破壊することを決めています。しかし、もしこれらの事が、イランの後押しの下に続けられるのなら、またロシアがこのような事を容認するのを我々が見たのなら、我々が想像する以上に早く、中東で新たな闘争が起こると思います。

これらは、イスラエルの朝刊の見出しです。これは流れ弾ではなく、シリアからの直接的、意図的な攻撃だ、と。そして、これによって流れが変わります。だから、これは伝える価値があると思ったのです。我々信者、イザヤ書17章が何であるかを知っている者、我々の周囲を理解している者にとって、私たち信じる者にとって、イスラエルとシリアの国境の状況が比較的穏やかだったものから、戦場になるといふこと、また、我々が直面しているのは、これから起こるはずの全面戦争への移行がとても容易であること、イランが既にあちら側に軍を配備していることも、ロシアが、彼らが活動することを認めるであろうことも、知っていますから。

今年は、とても興味深い冬になると思います。次は何だろう、と思います。これら全ての事から、私はとてもワクワクしていると言えます。私がワクワクしているのは——もちろん、戦争など望んでいませんよ。そうではなく、神は、指導者たちが思う以前に、彼らの考えを知っておられるのです。言い換えれば、将来について、我々が聖書の中に与えられている事柄は、全知の神のご性質が基になっているのです。ちょうど神が、出エジプト記4章の中で、モーセをはるばるパロの元へ送られた時のこと、神はモーセに言われました。

「わたしはあなたをパロの元へ遣わす。しかし、言うておくと、パロはあなたの言うことが気に入らないだろう。」

つまり、パロがモーセを見て、モーセの言うことを聞きもしないうちから、神はパロの反応に対して、モーセを備えさせたのです。要は、神は全てをご存知で、もし神が、預言者エゼキエルを通して、ダマスカスがいずれ滅ぼされると言われたなら、ダマスカスは滅ぼされ、その後、全世界大国が戦う事になる戦争、私はこれを全戦争の母と呼んでいます、最終的にそれをもたらす、その地域の指導者たちの非常に愚かな行動が、彼らの頭に浮かぶことも神はご存知です。1948年以降、イスラエルは、アラブ近隣諸国以外の国が関わる戦争は経験したことがないのです。大国が我々に侵略してきたことは、今までに一度もありません。ですから、そこまで迫って来ているその戦争は、非常に危険なもので、神が我々

の代わりにご介入されない限り、私たちは間違いなく滅ぼされます。アメリカもヨーロッパも我々の味方ではありません。当然、他の国が我々を助けに来ることはありません。しかし、神が我々を助けられます。私たちにはそれが分かっています。聖書にそう書いてありますから。神は、イスラエルに対して、素晴らしいご計画を持っておられるのです。預言者ダニエル、ゼカリヤ、イザヤ、エレミヤにも、その詳細が書かれています。我々には将来があります。それは、私たちを滅ぼすものではなく、我々に希望と未来を与えるものです。そして、ローマ書11章には、最終的にイスラエルはみな救われる、とあります。しかし、イスラエルが皆救われるその日まで、私たちは中東がエスカレートするのを目撃するでしょう。我々は中東戦争を目撃するでしょう。我々は、偽の平和が中東にもたらされるのを目撃するでしょう。イスラエルの上に、ヤコブの苦難で知られる大患難が及ぶのを目撃するでしょう。私たちは、神の御手がどのようにして彼らを救われるのかをみることでしょう。2日ほど前に、ツアーの人たちとペトラへ行ってきました。インスタグラムやフェイスブックで私をフォローしていただければ、ご覧いただけます。そこで教えたのは、イザヤ63章、ダニエル、更に黙示録によれば、イスラエルは砂漠に逃げるとあり、イザヤ書では砂漠について説明されており、それは現在のペトラの地域なのです。神は、その砂漠にイスラエルを置いて、我々を滅ぼそうとする反キリストとその軍勢から守られるのです。そして、イザヤ書63:1~6によれば、イエスが戻って来られると、まずその地域ボツラから、彼の民を集めて、それから彼らを連れ戻されます。ですから、イスラエルには素晴らしい未来があるのです。しかし、その未来には、これから起こるとても厳しいことも含まれています。それは、ここ中東で起こるのです。しかし、それら全ての事が伝えている事に、私はとてもワクワクするのです。それは、いつも私が言うように、11月中旬にクリスマスの電飾を見ると、感謝祭が近づいていることが分かります。だからもし、来る大患難の前兆が見えているなら、私たちには携挙がすぐそこまで近づいていることが分かります。実際、転送されてきたある統計によれば、アメリカの福音派の牧師のうち、たった3分の1が大患難前携挙を信じているといえます。彼らの多くが、御怒り前携挙か、患難中期携挙を信じているか、もしくは大患難を信じていないのです。事実、多くの人が、携挙が何かも良く知らず、動揺したり恐れたりしていますが、これは私たちの祝福された希望です。これは、私たちが期待できることです。約束された方は、確かに真実ですから。しかし、主は私たちに言われました。これら全てを通して、私たちはその日が近づいていることが分かります。つまり私たちは、その日が近づいていることを感じる事が出来るのです。その日、その時は、私たちには分かりません。ただ、第一テサロニケ5章に書かれているように、時や季節は、私たちに明白です。事実、パウロは言いました。「私が、あなたがたに書く必要はない。あなたがたにははっきりと分かる」

ですから、今日は皆さん全員にお聞きします。

主の日について、あなたにははっきりと分かっていますか？

あなたは、誰かに言ってもらったり、書いてもらう必要がありますか？

現在、中東で起こっていることの全ては、その日に向かって急速に動いています。

今日、皆さん全員にお聞きします。

これら全てを目撃して、あなたは準備が出来ていますか？

あなたは、集められて、私たちの創造主にお会いする準備が出来ていますか？

あなたは、ここから連れ出される準備が出来ていますか？

それとも、この世の何かがあなたをここに縛り付けていますか？

聖書には、私たちはこの世の者ではない、と書かれています。私たちはこの世にいますが、この世のものではありません。そして、私たちの国籍は天にある、と聖書に書かれています。そして、私たちは、上にあるものを求めなさい、と聖書にあります。そして、人が救われる唯一の道は、あなたが心で信じ、口で告白することだ、と聖書にあります。キリスト・イエスが、ただ主であるだけでなく、彼は来て、私たちの為に死に、その死によって全ての罪を担われた、そして、私たちに新しいいのちを与える為によみがえられた、と。それから聖書には、こうあります。

1 …もしあなたがたが、キリストとともによみがえらされたのなら、上にあるものを求めなさい。

(コロサイ 3:1)

コロサイ 2章には、罪によって死んでいた私たちを、主がよみがえらせてくださったとあります。だから、罪が赦された事を知り、あなたの信頼を主に置くなら、あなたは既に、この世の死からよみがえらされたのです。もし、そうであるなら、私たちが考えるべきは、上にあるものです。そこにはキリストが、神の右に座を占めておられます。

お父様、あなたの素晴らしい約束に心から感謝します。この世の悪から、私たちの体がすぐにも贖われることに感謝します。あなたに感謝します。被造物はうめき、あなたの現れを待ち望んでいますが、私たちにはするべき事があります。お父様、あなたに感謝します。あなたは言われました。あなたがイエスをこの世に送られたように、彼は私たちをこの世に遣わされました。だから私たちも、御父の仕事に励みます。どうか、この終わりの時に、あなたの御業に励めるように、力と知恵をお与えください。

イエスの御名によってお祈りします。

アーメン。

ということで、誕生日のお祝いメッセージをありがとうございます。今日は私の45歳の誕生日です。感謝します。



それから、もう一つワクワクしているのは、今日、ビホールド・イスラエルのロゴを、ようやく発表しました。これまでずっと使ってきた「BI」は、アプリのアイコンだったのです。ただ、ロゴが出来上がるまでの間、それを使っていたのですが、新しいのが出来たので、私たちはとても嬉しく思っています。ロゴは、遠くから見ると、今日のイスラエルのシンボル、ダビデの星のようです。現在のイスラエルを見れば、確かに、物凄い時と季節にあることが分かりますから。それから、ロゴには2つの方位磁石の矢印があって、それは、聖書が私たちに方位を示すからです。それから、「B」と「I」の外郭のようなものがありますが、それは「Behold」「Israel」そして、Bは開いた本のように見えます。それは、私たちが読むべきもの、私たちが浸るべきは聖書（Bible）です。なぜなら、御言葉に浸らない限り、この世は全く理解出来ません。そして、私はいつも言いますが、それこそが私たちが持つべき神の因子です。その因子を取り除き、神を因から取り除くと、悪が勝利し、善が敗北したと思うでしょう。しかし、私たちには希望があります。そして私たちの希望は、既に死んだ人の希望ではなく、目に見る事の出来ない希望です。信仰とは、目に見えるものではなく、見えないものを望むのです。神を喜ばすことが出来るとすれば、私たちが現在起こっていることを見て、ワクワク

ビホールド イスラエル 中東情勢アップデート 2017年10月22日

クすることでしょう。私たちは全てを見る必要はないのです。彼は、私たちにしてくださった約束を、もうすぐ成就させていただきます。

ということで、現在アメリカの西側は日曜日、アジア、オーストラリアは日曜の夜、ヨーロッパは日曜の午後ですね。中東で起こっていることに関してと、我々は備えなければならないことについて、短いメッセージをお届けしました。

ありがとうございます。God Bless you! 信仰を保ちましょう。さようなら。

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>